

長典男氏による 中野智香子ハーブ・セラピーの薦め

現在は多種多様の癒しとしての音楽演奏が多数あります。その中でもハーブという楽器が持つ癒しの特性を生かしての演奏会は多数行われていて、基本的にハーブの優しい音色によってクライアントを癒すものが大半です。

中野智香子さんが行っているハーブ・セラピーが他の方々と違っているのは、ハーブの原点であるソロモン王が戦場において兵士に死霊が取り付くのを退けるために弓の弦をかき鳴らしたことに始まり、それが原形となって作られたゲルトナーライアーに基づいた手法に従っていることです。また増川いづみ博士の指導の下に古代から引き継がれている特殊な音階を活用し、クライアントの心を落ち着かせ癒すためにどちらかといえば中音から低音を主体とされるはずなのに、敢えて高音を使い体と心の不協和音を作り出すことで体内に潜んでいる闇を炙り出して体を浄化していることなどです。

そのため、体の中に不要な物を溜めていらっしゃるクライアントほど、ハーブ・セラピーが始まると寝てしまう傾向が強く、それを加速させているのがハーブ・セラピーの前後に使われる増川いづみ博士の指導している音叉です。音叉というのはその場を浄化するだけではなく、体内の浄化を促進させることに一役買っているのです。

栄養学・バイオ電子工学博士、増川いづみ博士の教授による、アメリカで唯一、天体と音と人間の関係性を20数年前より研究しているカイロス・インスティテュートオブサウンドヒーリング社によるAcutonicsの正式プログラムによる音叉と周辺ツールを含めて痛みを一切伴わない心身に関する音と振動療法による施術プログラムを学び、2016年4月にAcutonics認定Level IVを取得して、音叉施術の資格及び認定サロンを取得しています。

このように、様々な意味で中野智香子さんの行っているハーブ・セラピーは彼女独自の方法での古代の周波数のハーブの音色で作成し、それに同じ周波数の音叉を使いセラピーを実施してきており、受けることで幸福感が得られるものと思っております。



慈空庵 長典男